

大和市

【AED】

大和市では、市民の方が突然呼吸や反応がなくなり、電気ショックが必要になったとき、近くに居合わせた人がAED(自動体外式除細動器)を使用できるよう、普及に努めています。

まず消防本部では、市内小中学校を含めた市の公共施設にAEDを設置し、維持管理を行っています。 また、消防本部設置以外の施設でも幼稚園、保育所、施設管理課及び管理団体等がAEDを設置しています。

AEDを自主設置している民間事業所は誰もが使えるAEDの協力施設として認定する「やまとAEDステーション」制度を設けるほか、市内24時間営業のコンビニエンスストア及び郵便局と協定を結び、市か店舗へAEDを設置しています。



大和市では、市民の方が突然倒れ意識がなくなり、電気ショックが必要になったとき、近くに居合わせた人がAED(自動体外式除細動器)を使用できるよう、普及に努めています。

まず消防本部では、市内小中学校を含めた市の公共施設や、市内24時間営業のコンビニエンスストア及び郵便局と協定を結びAEDを設置しています。

AEDを自主設置している民間事業所へは、誰もが使えるAEDの協力施設として認定する「やまとAEDステーション」制度を設けています。

また、消防本部設置以外の施設でも幼稚園、保育所、施設管理課及び管理団体等がAEDを設置しています。

大和市

【スタンドパイプ】

いざという時、市民が活用できる消火資機材のひとつがスタンドパイプ。

消防隊員が駆け付ける前でも、道路上にある消火栓や排水栓に差し込み、ホースをつなぎ消火を行います。

軽量で操作も簡単、消防車が侵入できない道路の狭い地域や木造住宅密集地域でも近くの消火栓を使って消火活動ができます。



いざという時、市民が活用できる消火資機材のひとつがスタンドパイプ。

消防隊員が駆け付ける前でも、道路上にある消火栓や排水栓に差し込み、ホースをつなぎ消火を行います。

軽量で操作も簡単、消防車が侵入困難な道路の狭い地域や木造住宅密集地域でも近くの消火栓を使って消火活動ができます。

たわ市

【消火栓】

大規模災害時にはすぐに消防車が到着しない可能性があります。

いざという時、自分たちの手で消火活動できるスタンドパイプ。

この使用時には消火栓と接続し放水することができます。

しかし普段からどこに消火栓があるのか、その位置を把握しておくことはとても大事。

適切な場所をすばやく選定し、市民の手で消火活動を行うことができると、地域の防災力は飛躍的に高まります。



このスタンドパイプを消火栓と接続し放水することができます。

たわ市

【防火水槽】 (市民が使用するものではない。)

いざという時、市民が活用できる消火資機材のひとつが防火水槽。

とくに、断水時に消火栓から水が出ないときにも、事前に貯水してある防火水槽から消化用→消火用の水を得ることができます。

大きな災害時には想定外のことが起きます。

断水時にも慌てずに防火水槽を使って消火活動ができます。



◆消防法に基づく防火水槽の設置基準についてから

防火水槽は万一火災が発生した際に、消防隊などが火災の被害を最小限に食い止めるために最低限の消火活動に必要なとなる量の水を、地中に蓄えておく為の水槽の事です。

※また、地震などの大規模災害時に飲料水が不足するケースも多くある事から、飲料水、及び消火活動兼用として設置されているものは貯水槽と呼ばれております。

~~→~~
RCL